

2006年度版

# 「CCM教育講座」

## Ⅱ. 工法の比較検討

# Construction Cost Control Management System

<解説編>

CCM教材チーム  
地域経済研究所

<2006年度版>  
Ⅱ. 工法選択による原価発生のメカニズム  
<CCM教育講座>  
< 解説編 >

1. 基準単価の算出法

<1-①> 実勢原価の調査と基準単価の計算

<1-②> 労務施工による人工計算の仕組み

2. 労務施工による原価発生のメカニズム

<2-①> 労務施工による労務費発生の仕組み

<2-②> 労務施工による仮設費発生の仕組み

<2-③> 労務施工による総原価発生の仕組み

3. 機械施工による原価発生のメカニズム

<3-①> 機械施工による機械費発生の仕組み

<3-②> 機械施工による仮設費発生の仕組み

<3-③> 機械施工による総原価発生の仕組み

4. 外注施工による原価発生のメカニズム

<4-①> 外注施工による外注費発生の仕組み

<4-②> 外注施工による仮設費発生の仕組み

<4-③> 外注施工による総原価発生の仕組み

5. ミス等が発生した場合の工事原価への影響

<5-①> ミス等の発生による労務費の影響

<5-②> ミス等の発生による仮設費の影響

<5-③> ミス等の発生による総原価の影響

<5-④> ミス等の発生による原価の増加高

6. 実際材料費発生の仕組み

<6-①> 実際材料費発生の仕組み

<6-②> ミス等の発生による材料費の影響

7. 12社の総原価の比較

<7-①> 12社の総原価の比較

地域経済研究所  
CCM教材チーム

## <工法－1－①> (解答) 「実勢原価の調査と基準単価の計算」

---

### 1. 人的資源による施工

|            |                    |                             |
|------------|--------------------|-----------------------------|
| ① A建設の実績原価 | 3,900,000 円        |                             |
| ② B建設の実績原価 | 2,550,000 円        |                             |
| ③ C建設の実績原価 | 2,100,000 円        |                             |
| ④ D建設の実績原価 | <u>2,500,000 円</u> | 4社合計 ( <b>11,050,000</b> 円) |

### 2. 機械資源による施工

|            |                    |                            |
|------------|--------------------|----------------------------|
| ⑤ E建設の実績原価 | 2,600,000 円        |                            |
| ⑥ F建設の実績原価 | 1,800,000 円        |                            |
| ⑦ G建設の実績原価 | 2,250,000 円        |                            |
| ⑧ H建設の実績原価 | <u>2,200,000 円</u> | 4社合計 ( <b>8,850,000</b> 円) |

### 3. 新工法外注による施工

|            |                    |   |
|------------|--------------------|---|
| ⑨ I建設の実績原価 | 3,050,000 円        |   |
| ⑩ J建設の実績原価 | 2,300,000 円        |   |
| ⑪ K建設の実績原価 | 2,150,000 円        |   |
| ⑫ L建設の実績原価 | <u>2,300,000 円</u> | 4社合計 ( <b>9,800,000</b> 円) 12社合計 ( <b>29,700,000</b> 円) |

### 4. 基準単価の計算

- ① 12業者合計 ( **29,700,000** 円) ÷ 12社 = ( **2,475,000** 円) ……平均実績原価
- ② 平均実績原価 ( **2,475,000** 円) ÷ 120m<sup>3</sup> = ( **20,625** 円) ……基準単価

<解説> 基準単価は、全国の実勢原価の調査により、平均して算出された実勢単価である。

## <工法－1－②> (解説) 「労務施工による人工計算と工期計算」

---

### 1. 実績による人工計算

◎ 作業量 ( 120 m<sup>3</sup> ) ÷ 1人1日当りの作業量 ( 1 m<sup>3</sup> ) = 人工数 ( 120 人工 )

### 2. A建設の実績

◎ 人工数 ( 120 人工 ) ÷ 1月の作業日数 ( 20 日 ) ÷ 作業員数 ( 1 人 ) = 工期 ( 6 カ月 )

### 3. B建設の実績

◎ 人工数 ( 120 人工 ) ÷ 1月の作業日数 ( 20 日 ) ÷ 作業員数 ( 2 人 ) = 工期 ( 3 カ月 )

### 4. C建設の実績

◎ 人工数 ( 120 人工 ) ÷ 1月の作業日数 ( 20 日 ) ÷ 作業員数 ( 3 人 ) = 工期 ( 2 カ月 )

### 5. D建設の実績

◎ 人工数 ( 120 人工 ) ÷ 1月の作業日数 ( 20 日 ) ÷ 作業員数 ( 3 人 ) = 工期 ( 2 カ月 ) ・ ・ 余剰人員 ( 1 人 )

<解説> 総作業量を作業員1人当りの1日分の標準作業量で割ったものが、1人工としての基準となる。

## <工法-2-①> (解説) 「労務施工による労務費発生仕組み」

---

### 1. A建設の実績

- ① 作業員 ( 1 人 ) × 1 月の日数 ( 20 日 ) × 工期 ( 6 月 ) = 作業日数 ( 120 日 )
- ② 1 日当りの賃金 ( 10,000 円 ) × 作業日数 ( 120 日 ) = 労務費 ( 1,200,000 円 )

### 2. B建設の実績

- ① 作業員 ( 2 人 ) × 1 月の日数 ( 20 日 ) × 工期 ( 3 月 ) = 作業日数 ( 120 日 )
- ② 1 日当りの賃金 ( 10,000 円 ) × 作業日数 ( 120 日 ) = 労務費 ( 1,200,000 円 )

### 3. C建設の実績

- ① 作業員 ( 3 人 ) × 1 月の日数 ( 20 日 ) × 工期 ( 2 月 ) = 作業日数 ( 120 日 )
- ② 1 日当りの賃金 ( 10,000 円 ) × 作業日数 ( 120 日 ) = 労務費 ( 1,200,000 円 )

### 4. D建設の実績

- ① 作業員 ( 4 人 ) × 1 月の日数 ( 20 日 ) × 工期 ( 2 月 ) = 作業日数 ( 160 日 )
- ② 1 日当りの賃金 ( 10,000 円 ) × 作業日数 ( 160 日 ) = 労務費 ( 1,600,000 円 )

<解説-1> 労務費コストは、時間で発生する時間比例費であるから、延べ作業時間が同じであれば同額となる。

<解説-2> この作業環境が3人のため、実質3人の作業しかできないため、D建設では1人分がコスト高となる。

## <工法-2-②> (解説) 「労務施工による仮設費発生仕組み」

---

### 1. A建設の実績

- ① 1月の施工日数 ( 30 日) × 工期 ( 6 月) = 施工日数 ( 180 日)
- ② 1日の仮設費 ( 15,000 円) × 施工日数 ( 180 日) = 仮設費 ( 2,700,000 円)

### 2. B建設の実績

- ① 1月の施工日数 ( 30 日) × 工期 ( 3 月) = 施工日数 ( 90 日)
- ② 1日の仮設費 ( 15,000 円) × 施工日数 ( 90 日) = 仮設費 ( 1,350,000 円)

### 3. C建設の実績

- ① 1月の施工日数 ( 30 日) × 工期 ( 2 月) = 施工日数 ( 60 日)
- ② 1日の仮設費 ( 15,000 円) × 施工日数 ( 60 日) = 仮設費 ( 900,000 円)

### 4. D建設の実績

- ① 1月の施工日数 ( 30 日) × 工期 ( 2 月) = 施工日数 ( 60 日)
- ② 1日の仮設費 ( 15,000 円) × 施工日数 ( 60 日) = 仮設費 ( 900,000 円)

<解説> 仮設費は、使用日数に比例するが、C、D建設の施工は工期が同一になるため、仮設費も同額となる。

## <工法-2-③> (解説) 「労務施工による原価発生仕組み」

---

1. A建設の実績

労務費 ( 1,200,000 円) + 仮設費 ( 2,700,000 円) = 総原価 ( 3,900,000 円)

2. B建設の実績

労務費 ( 1,200,000 円) + 仮設費 ( 1,350,000 円) = 総原価 ( 2,550,000 円)

3. C建設の実績

労務費 ( 1,200,000 円) + 仮設費 ( 900,000 円) = 総原価 ( 2,100,000 円)

4. D建設の実績

労務費 ( 1,600,000 円) + 仮設費 ( 900,000 円) = 総原価 ( 2,500,000 円)

<解説> 労務費と仮設費を合計すると、仮設材のレンタル料の影響を受け、原価は大きく変動する。

## <工法－3－①> (解説) 「機械施工による機械費発生の仕組み」

---

1. E建設の実績

1日の分の機械費 ( 11,000 円) × 施工日数 ( 100 日) = 機械費 ( 1,100,000 円)

2. F建設の実績

1日の分の機械費 ( 30,000 円) × 施工日数 ( 40 日) = 機械費 ( 1,200,000 円)

3. G建設の実績

1日の分の機械費 ( 60,000 円) × 施工日数 ( 30 日) = 機械費 ( 1,800,000 円)

4. H建設の実績

1日の分の機械費 ( 95,000 円) × 施工日数 ( 20 日) = 機械費 ( 1,900,000 円)

<解説> 機械資源は、施工能力に差異があるが、工期とレンタル料の双方の影響で大きくコストが変化する。

## <工法－3－②> (解説) 「機械施工による仮設費発生の仕組み」

---

### 1. E建設の実績

1日当りの仮設費 ( 15,000 円) × 施工日数 ( 100 日) = 仮設費 ( 1,500,000 円)

### 2. F建設の実績

1日当りの仮設費 ( 15,000 円) × 施工日数 ( 40 日) = 仮設費 ( 600,000 円)

### 3. G建設の実績

1日当りの仮設費 ( 15,000 円) × 施工日数 ( 30 日) = 仮設費 ( 450,000 円)

### 4. H建設の実績

1日当りの仮設費 ( 15,000 円) × 施工日数 ( 20 日) = 仮設費 ( 300,000 円)

<解説> 仮設材のレンタル料は、レンタル期間に比例して発生するため、レンタル期間が延びるとコスト高となる。

## <工法－3－③> (解説) 「機械施工による総原価発生の仕組み」

---

### 1. E建設の実績

機械費 ( 1,100,000 円) + 仮設費 ( 1,500,000 円) = 総原価 ( 2,600,000 円)

### 2. F建設の実績

機械費 ( 1,200,000 円) + 仮設費 ( 600,000 円) = 総原価 ( 1,800,000 円)

### 3. G建設の実績

機械費 ( 1,800,000 円) + 仮設費 ( 450,000 円) = 総原価 ( 2,250,000 円)

### 4. H建設の実績

機械費 ( 1,900,000 円) + 仮設費 ( 300,000 円) = 総原価 ( 2,200,000 円)

<解説> 機械費と仮設費を合計すると、機械費の時間比例費と仮設費の時間比例費双方の影響を受け、大きく変化する

## <工法－４－①>（解説）「外注施工による外注費発生の仕組み」

---

1. I 建設の実績  
外注費の額（ 1,250,000 円） ..... 外注費
  
2. J 建設の実績  
外注費の額（ 1,400,000 円） ..... 外注費
  
3. K 建設の実績  
外注費の額（ 1,550,000 円） ..... 外注費
  
4. L 建設の実績  
外注費の額（ 1,850,000 円） ..... 外注費

<解説> 外注費の比較では、I 建設のR I 工法が一番低いが、工期の影響を受けることを注意しなければならない。

## <工法－4－②>（解説）「外注施工による仮設費発生の仕組み」

---

### 1 I 建設の実績

1日当りの仮設費（ 15,000 円）× 施工日数（ 120 日）＝仮設費（ 1,800,000 円）

### 2. J建設の実績

1日当りの仮設費（ 15,000 円）× 施工日数（ 60 日）＝仮設費（ 900,000 円）

### 3. K建設の実績

1日当りの仮設費（ 15,000 円）× 施工日数（ 40 日）＝仮設費（ 600,000 円）

### 4. L建設の実績

1日当りの仮設費（ 15,000 円）× 施工日数（ 30 日）＝仮設費（ 450,000 円）

<解説> 仮設材のレンタル料は、レンタル期間に対する時間比例費であり、工期の長短でコストが大きく変化する。

## <工法－4－③>（解説）「外注施工による総原価発生の仕組み」

---

1. I建設の実績

外注費（ 1,250,000 円）＋ 仮設費（ 1,800,000 円）＝総原価（ 3,050,000 円）

2. J建設の実績

外注費（ 1,400,000 円）＋ 仮設費（ 900,000 円）＝総原価（ 2,300,000 円）

3. K建設の実績

外注費（ 1,550,000 円）＋ 仮設費（ 600,000 円）＝総原価（ 2,150,000 円）

4. L建設の実績

外注費（ 1,850,000 円）＋ 仮設費（ 450,000 円）＝総原価（ 2,300,000 円）

<解説> 外注費と仮設費を合計すると、仮設費のレンタル期間の影響で、K建設が一番安くなる。

## <工法-5-①> (解説) 「ミス等の発生による労務費の影響」

---

### 1. A建設の実績

- ① 作業員 ( 1 人 ) × 1月の日数 ( 20 日 ) × 工期 ( 7 月 ) = 総作業日数 ( 140 日 )
- ② 1日当りの賃金 ( 10,000 円 ) × 総作業日数 ( 140 日 ) = 労務費 ( 1,400,000 円 )

### 2. B建設の実績

- ① 作業員 ( 2 人 ) × 1月の日数 ( 20 日 ) × 工期 ( 4 月 ) = 総作業日数 ( 160 日 )
- ② 1日当りの賃金 ( 10,000 円 ) × 総作業日数 ( 160 日 ) = 労務費 ( 1,600,000 円 )

### 3. C建設の実績

- ① 作業員 ( 3 人 ) × 1月の日数 ( 20 日 ) × 工期 ( 3 月 ) = 総作業日数 ( 180 日 )
- ② 1日当りの賃金 ( 10,000 円 ) × 総作業日数 ( 180 日 ) = 労務費 ( 1,800,000 円 )

### 4. D建設の実績

- ① 作業員 ( 4 人 ) × 1月の日数 ( 20 日 ) × 工期 ( 3 月 ) = 総作業日数 ( 240 日 )
- ② 1日当りの賃金 ( 10,000 円 ) × 総作業日数 ( 240 日 ) = 労務費 ( 2,400,000 円 )

<解説> ミス等の影響で後期が延長されると、労務費にも大きく影響を与え原価増となる。

## <工法-5-②> (解説) 「ミス等の発生による仮設費の影響」

---

### 1. A建設の実績

- ① 1月の施工日数 ( 30 日) × 工期 ( 7 月) = 施工日数 ( 210 日)
- ② 1日の仮設費 ( 15,000 円) × 総施工日数 ( 210 日) = 仮設費 ( 3,150,000 円)

### 2. B建設の実績

- ① 1月の施工日数 ( 30 日) × 工期 ( 4 月) = 施工日数 ( 120 日)
- ② 1日の仮設費 ( 15,000 円) × 総施工日数 ( 120 日) = 仮設費 ( 1,800,000 円)

### 3. C建設の実績

- ① 1月の施工日数 ( 30 日) × 工期 ( 3 月) = 施工日数 ( 90 日)
- ② 1日の仮設費 ( 15,000 円) × 総施工日数 ( 90 日) = 仮設費 ( 1,350,000 円)

### 4. D建設の実績

- ① 1月の施工日数 ( 30 日) × 工期 ( 3 月) = 施工日数 ( 90 日)
- ② 1日の仮設費 ( 15,000 円) × 総施工日数 ( 90 日) = 仮設費 ( 1,350,000 円)

<解説> 仮設費についてもミス等により、工期が延長したため仮設費の負担が増加する。

## <工法-5-③> (解説) 「ミス等の発生による総原価の影響」

---

1. A建設業者の実績

労務費 ( 1,400,000 円) + 仮設費 ( 3,150,000 円) = 総原価 ( 4,550,000 円)

2. B建設業者の実績

労務費 ( 1,600,000 円) + 仮設費 ( 1,800,000 円) = 総原価 ( 3,400,000 円)

3. C建設業者の実績

労務費 ( 1,800,000 円) + 仮設費 ( 1,350,000 円) = 総原価 ( 3,150,000 円)

4. D建設業者の実績

労務費 ( 2,400,000 円) + 仮設費 ( 1,350,000 円) = 総原価 ( 3,750,000 円)

<解説> ミスとうによる工期の延長は、労務費および仮設費の増加になり、大きな原価増の要因となる。

## <工法-5-④> (解説) 「ミス等の発生による原価の増加高」

---

### 1. A建設業者の実績

ミス発生後の原価 ( 4,550,000 円) - 当初の実際原価 ( 3,900,000 円) = 増加した原価 ( 650,000 円)

### 2. B建設業者の実績

ミス発生後の原価 ( 3,400,000 円) - 当初の実際原価 ( 2,550,000 円) = 増加した原価 ( 850,000 円)

### 3. C建設業者の実績

ミス発生後の原価 ( 3,150,000 円) - 当初の実際原価 ( 2,100,000 円) = 増加した原価 ( 1,050,000 円)

### 4. D建設業者の実績

ミス発生後の原価 ( 3,750,000 円) - 当初の実際原価 ( 2,500,000 円) = 増加した原価 ( 1,250,000 円)

<解説> 各社の総原価は、ミス等の発生前と後では、大きなコスト増になっていることが分かる。

## <工法－6－①>（解説）「実際材料費発生仕組み」

---

### 1. 材料費の標準計算

- ① PS工事の全工事量は、 $120\text{m}^3$ である。
- ② 標準材料費は、 $1\text{m}^3$ 当り15個で基準単価は500円である。
- ③ 標準ロス数量は、標準消費量の1%であり、これを超えるものは不適切なミスロスによるものである。

### 2. 各建設業者の材料費の条件

- ① A建設の実際消費量は、標準消費量の他にミスロス等で100個を追加消費した。実際購入単価は540円である。
- ② B建設の実際消費量は、標準消費量の他にミスロス等で70個を追加消費した。実際購入単価は490円である。
- ③ C建設の実際消費量は、標準消費量の他にミスロス等で50個を追加消費した。実際購入単価は510円である。
- ④ D建設の実際消費量は、標準消費量の他にミスロス等で120個を追加消費した。実際購入単価は460円である。

### 3. 各社の実際材料費の計算

- ① A建設の材料費  
[ $\text{m}^3$ 当り標準消費量 (15個) × 全工事量 ( $120\text{m}^3$ ) + ミスロス等 (100個)] × 実際単価 (540円) = 材料費 (1,026,000円)
- ② B建設の材料費  
[ $\text{m}^3$ 当り標準消費量 (15個) × 全工事量 ( $120\text{m}^3$ ) + ミスロス等 (70個)] × 実際単価 (490円) = 材料費 (916,300円)
- ③ C建設の材料費  
[ $\text{m}^3$ 当り標準消費量 (15個) × 全工事量 ( $120\text{m}^3$ ) + ミスロス等 (50個)] × 実際単価 (510円) = 材料費 (943,500円)
- ④ D建設の材料費  
[ $\text{m}^3$ 当り標準消費量 (15個) × 全工事量 ( $120\text{m}^3$ ) + ミスロス等 (120個)] × 実際単価 (460円) = 材料費 (883,200円)

<解説> 施工ミスで材料費の追加消費によって、原価増となることを注意しなければならない。

## <工法一6-②> (解説) 「ミス等の発生による材料費の影響」

---

### 1. 材料費の標準計算

- ① PS工事の全工事量は、 $120\text{m}^3$ である。
- ② 標準材料費は、 $1\text{m}^3$ 当り15個で基準単価は500円である。
- ③ 標準ロス数量は、標準消費量の1%であり、これを超えるものは不適切なミスロスによるものである。

### 2. 各建設業者の材料費の条件

- ① A建設の実際消費量は、標準消費量の他にミスロス等で100個を追加消費した。実際購入単価は540円である。
- ② B建設の実際消費量は、標準消費量の他にミスロス等で70個を追加消費した。実際購入単価は490円である。
- ③ C建設の実際消費量は、標準消費量の他にミスロス等で50個を追加消費した。実際購入単価は510円である。
- ④ D建設の実際消費量は、標準消費量の他にミスロス等で120個を追加消費した。実際購入単価は460円である。

### 1. 標準ミスロスの計算

- ①  $\text{m}^3$ 当り標準消費量 (15個)  $\times$  全工事量 ( $120\text{m}^3$ )  $\times$  許容標準のロス率 (1%) = 許容標準ロスの材料数量 (18個)
- ② 許容標準ロスの材料数量 (18個)  $\times$  材料基準単価 (500円) = 許容標準ロス材料費 (9,000円)

### 2. 各社の実質ミスロスによる損害

- ① A建設の実質ミスロスの材料費  
[ミスロス (100個) - 許容標準ロス (18個)]  $\times$  実際単価 (540円) = 実質ミスロスによる損害 (44,280円)
- ② B建設の実質ミスロスの材料費  
[ミスロス (70個) - 許容標準ロス (18個)]  $\times$  実際単価 (490円) = 実質ミスロスによる損害 (25,480円)
- ③ C建設の実質ミスロスの材料費  
[ミスロス (50個) - 許容標準ロス (18個)]  $\times$  実際単価 (510円) = 実質ミスロスによる損害 (16,320円)
- ④ D建設の実質ミスロスの材料費  
[ミスロス (120個) - 許容標準ロス (18個)]  $\times$  実際単価 (460円) = 実質ミスロスによる損害 (46,920円)

<解説> 注意すれば避けられるミスロスと、避けることができないミスロスは区別すべきである。

## <工法-7-①> (解説) 「12社の総原価の比較検討」

---

### 1. 12社のそう原価の比較

|   |        |   |   |   |   |     |   |           |    |   |     |   |           |    |   |    |   |           |    |
|---|--------|---|---|---|---|-----|---|-----------|----|---|-----|---|-----------|----|---|----|---|-----------|----|
| ① | A建設の実績 | ・ | ・ | ・ | ・ | 労務費 | ( | 1,200,000 | 円) | + | 仮設費 | ( | 2,700,000 | 円) | = | 合計 | ( | 3,900,000 | 円) |
| ② | B建設の実績 | ・ | ・ | ・ | ・ | 労務費 | ( | 1,200,000 | 円) | + | 仮設費 | ( | 1,350,000 | 円) | = | 合計 | ( | 2,550,000 | 円) |
| ③ | C建設の実績 | ・ | ・ | ・ | ・ | 労務費 | ( | 1,200,000 | 円) | + | 仮設費 | ( | 900,000   | 円) | = | 合計 | ( | 2,100,000 | 円) |
| ④ | D建設の実績 | ・ | ・ | ・ | ・ | 労務費 | ( | 1,600,000 | 円) | + | 仮設費 | ( | 900,000   | 円) | = | 合計 | ( | 2,500,000 | 円) |
| ⑤ | E建設の実績 | ・ | ・ | ・ | ・ | 機械費 | ( | 1,100,000 | 円) | + | 仮設費 | ( | 1,500,000 | 円) | = | 合計 | ( | 2,600,000 | 円) |
| ⑥ | F建設の実績 | ・ | ・ | ・ | ・ | 機械費 | ( | 1,200,000 | 円) | + | 仮設費 | ( | 600,000   | 円) | = | 合計 | ( | 1,800,000 | 円) |
| ⑦ | G建設の実績 | ・ | ・ | ・ | ・ | 機械費 | ( | 1,800,000 | 円) | + | 仮設費 | ( | 450,000   | 円) | = | 合計 | ( | 2,250,000 | 円) |
| ⑧ | H建設の実績 | ・ | ・ | ・ | ・ | 機械費 | ( | 1,900,000 | 円) | + | 仮設費 | ( | 300,000   | 円) | = | 合計 | ( | 2,200,000 | 円) |
| ⑨ | I建設の実績 | ・ | ・ | ・ | ・ | 外注費 | ( | 1,250,000 | 円) | + | 仮設費 | ( | 1,800,000 | 円) | = | 合計 | ( | 3,050,000 | 円) |
| ⑩ | J建設の実績 | ・ | ・ | ・ | ・ | 外注費 | ( | 1,400,000 | 円) | + | 仮設費 | ( | 900,000   | 円) | = | 合計 | ( | 2,300,000 | 円) |
| ⑪ | K建設の実績 | ・ | ・ | ・ | ・ | 外注費 | ( | 1,550,000 | 円) | + | 仮設費 | ( | 600,000   | 円) | = | 合計 | ( | 2,150,000 | 円) |
| ⑫ | L建設の実績 | ・ | ・ | ・ | ・ | 外注費 | ( | 1,850,000 | 円) | + | 仮設費 | ( | 450,000   | 円) | = | 合計 | ( | 2,300,000 | 円) |

### 2. 実行予算(2,475,000円)以内の業者

|   |        |   |           |    |   |        |   |           |    |   |        |   |           |    |
|---|--------|---|-----------|----|---|--------|---|-----------|----|---|--------|---|-----------|----|
| ③ | C建設の実績 | ( | 2,100,000 | 円) | ⑥ | F建設の実績 | ( | 1,800,000 | 円) | ⑦ | G建設の実績 | ( | 2,250,000 | 円) |
| ⑧ | H建設の実績 | ( | 2,200,000 | 円) | ⑩ | J建設の実績 | ( | 2,300,000 | 円) | ⑪ | K建設の実績 | ( | 2,150,000 | 円) |
| ⑫ | L建設の実績 | ( | 2,300,000 | 円) |   |        |   |           |    |   |        |   |           |    |

### 3. 実行予算(2,475,000円)を超えた業者

|   |        |   |           |    |   |        |   |           |    |   |        |   |           |    |
|---|--------|---|-----------|----|---|--------|---|-----------|----|---|--------|---|-----------|----|
| ① | A建設の実績 | ( | 3,900,000 | 円) | ② | B建設の実績 | ( | 2,550,000 | 円) | ④ | D建設の実績 | ( | 2,500,000 | 円) |
| ⑤ | E建設の実績 | ( | 2,600,000 | 円) | ⑨ | I建設の実績 | ( | 3,050,000 | 円) |   |        |   |           |    |

<解説> 各社の実勢原価の平均値と比較して、低い場合は良いが高い場合は、原価管理が十分に機能していない。